

Mihama Town

TSUNAMI Hazard Map

美浜町津波ハザードマップ

地震

津波

避難

グラツときたら、安全な高台へ早く逃げる！

美浜町

このマップについてのお問い合わせ：美浜町エネルギー政策課 危機管理対策室 Tel.0770-32-6716

令和7年3月

地震・津波災害時の避難行動

ポイント①

地震を感じたら直ちに避難！

強い揺れやゆっくりと長い時間の揺れを感じたら、急いで避難してください。

津波は強い地震だけではなく、弱い地震でも起こる場合がありますので、地震の揺れを感じなくても、大津波警報、津波警報、津波注意報が発表されたら、すぐに避難しましょう。

ポイント②

より「速い、より「高い」場所へ！

時間と余力がある限り、海岸から離れたより速い安全な高台などへ避難（水平避難）しましょう。

時間に余裕がない場合は、速く逃げるよりも「高い」場所へ逃げる（垂直避難）を心がけてください。

ポイント③

避難に車は使わない！

原則として、車で避難することはやめましょう。水深が30cmを超えると車は走行が困難になります。

車で避難すると、渋滞が発生し津波に飲み込まれてしまうおそれがあります。

ポイント④

海・川に近づかない！

大津波警報、津波警報、津波注意報が解除されるまで海岸や川沿いには近づかないようにしましょう。

津波は繰り返して襲ってくるので、津波警報や津波注意報が解除されるまで高台にとどまってください。

津波発生

垂直避難（緊急）

水平避難（基本）

津波避難場所・指定避難所

避難行動は、津波避難場所や近隣のより安全な場所・建物などへの「水平避難」、逃げ遅れた場合に、その時点にいる建物内でより高い場所などへ移動する「垂直避難」があります。

避難の種類と行動

【水平避難】

【垂直避難】

避難時の心得

火の元（コンロ、暖房器具、タバコ、暖房など）と戸締りを確認し、電気はブレーカーを落しましょう。

動きやすい服装、必要最小限の荷物で、できる限り2人以上で避難しましょう。

長靴は中に水が入って歩きにくくなる危険があるため、運動靴で避難しましょう。

水の深さによっては歩にくくなるため、浸水する前に避難しましょう。

マンホールや排水溝に気づかず、吸い込まれる危険があります。状況などを注意し、注意して避難しましょう。

非常持出品や非常備蓄品の準備をしましょう

非常持出品

チェック

家庭内備蓄品（最低3日分、推奨1週間分）

チェック

その他（人により必要なもの、あると便利なもの）

チェック

玄関等に備えるもの

チェック

非常持出品は重さや体積の制約がある場合があります。体力に合った重さ、大きさを準備しましょう。

【目次】

男性…15kg

女性…10kg

非常持出品は重さや体積の制約がある場合があります。体力に合った重さ、大きさを準備しましょう。

【ローリングストック】

食品や生活用品を少し多めに買い置きし、期限が近いものから消費してその分を買い足す準備の考えです。

津波避難の三原則

津波警報が解除されるまで絶対に戻らない！

大津波警報、津波警報、津波注意報が発表されたら、すぐに高台に避難してください。「津波避難の三原則」は避難の際の心構えとして重要なことです。迷わず実行できるよう家族で話し合っておきましょう。

①想定にとらわれるな

②その状況下において最善を尽くせ

③率先避難者たれ

わが家の防災メモ

■わが家の避難所・避難場所（災害別）

津波

急傾斜地の崩壊、土石流、地すべり

高潮

地震

洪水

■いざという時の連絡先

機関名

電話番号

機関名

電話番号

美浜町夜防（代表）

☎0770-32-1111

美浜消防署

☎0770-32-1190

救済警察署

☎0770-25-0110

病院（名称：）

■わが家の連絡先

名前

会社・学校の連絡先

携帯電話

メールアドレス

生年月日

血液型

安否確認方法

災害用伝言ダイヤル（171）

災害時にNTTより提供される「声の伝言板」です。

■使用方法を知っておきましょう。（※サービス開始は、テレビ・ラジオなどで通知されます）

伝言の録音

171→1→被災した家の電話番号（30秒以内）

伝言の再生

171→2→被災した家の電話番号

災害用伝言板（web171）

https://www.web171.jp

災害用伝言板（web171）

インターネット

（パソコン、携帯電話/スマートフォンなど）

テレビやラジオ

アプリ・メール

（携帯電話/スマートフォンなど）

緊急速報メール（エリアメール）

登録不要

町内に所在する人の携帯電話に強制的に情報が配信されます。

※一部機種ではエリアメールの受信にあらかじめ設定が必要な場合があります。

美浜町津波ハザードマップの使い方

福井県では、過去の地震によりいくつかの津波を経験しており、これから先も海底を震源とする地震が発生した場合は、津波による被害が発生する可能性があります。

津波ハザードマップは、地震による津波の災害に、「日頃からどのように備えておけばよいのか」「万が一、災害が起こった場合にはどう行動すればよいのか」についてまとめたものです。このマップで、自宅が浸水する可能性があるのか、また、安全な場所はどこで、どう避難するのかを、ご家族の皆さんでよく話し合ってください。

過去に福井県に襲った津波

No.

発生日月

地震の名称

地震規模

福井県での津波記録（いずれも人的被害なし）

1

昭和39年6月16日

新潟地震

M7.7

三箇10.36m、敦賀0.46m

2

昭和58年5月26日

日本海中部地震

M7.7

三箇1.2m、高浜1.9m

3

平成5年2月7日

—

M6.6

福井港0.26m

4

平成5年7月12日

北海道西南沖地震

M7.8

福井港0.9m、敦賀港0.9m

5

令和6年1月1日

能登半島地震

M7.6

敦賀港0.57m

出典元… No.1～4：東京大学出版会「日本建築津波被害調査（第2版）」（684年から1996年（平成8年）に日本およびその周辺で発生した津波について整理されたもの）による

No.5：災害時地震・津波報告 令和6年能登半島地震（気象庁/令和6年9月）による

美浜町津波ハザードマップで使用している情報について

平成26年3月に作成した津波ハザードマップは、国による断層調査が実施されていなかったため、福井県が独自の方法で検討を行い、平成24年度に公表した津波浸水想定に基づき作成したものです。

その後、福井県では国から示された「日本海側統一の津波断層モデル（日本海における大規模地震に関する調査報告書）」と「津波浸水想定の設定の手引き」による計算手法を用いて新たな津波浸水想定^{※1}を行い、令和2年10月に公表しました。また、令和4年3月には津波防災地域づくりに関する法律に基づき「津波災害警戒区域」を指定しました。

津波ハザードマップは、この「津波災害警戒区域」を基に、最大クラスの津波が発生した場合に津波による浸水が予想される区域と「基準水位」を示しています。

※1：福井県では図1に示す津波断層モデルを対象に、最大クラスの津波が悪条件下（最も津波の影響がある満潮時に堤防や防波堤が破壊された場合（図2））において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）の最大値（図3）を重ね合わせて津波浸水想定を設定しています。

■今回の津波断層モデルの位置図

■堤防（盛土工構造物）

■防波堤（堤岸も同様）

※※地震や津波状況に対する技術的評価結果がない構造物および堤防の条件設定

津波発生メカニズムと津波の特徴

津波発生メカニズム

津波発生と伝播のしくみ

津波は、海底の浅い所で発生した地震により、その上の海水全体をおし上げ、大きな波となって四方八方に伝播するものです。通常は海水表面だけがうねる現象であるのに対し、津波は海底から海面までの海水全てが移動するエネルギーが非常に大きな波です。このため、津波は海底から海面までの水がかたまりとなり、勢いが絶えずに連続して押し寄せます。

②海水をおし上げて津波が起こります

③海底から海面までの水がかたまりとなって海岸に押し寄せます

①地震により海底が動きます

津波の特徴

■津波のスピードは速い！

■津波は引き波から始まるとはかぎらない！

■津波は繰り返して襲ってくる！

■津波の破壊力はすさまじい！

■津波の高さは想像を超える！

災害時の情報伝達の経路

大津波警報・津波警報・津波注意報、避難指示は、下図のような経路で伝達します。

津波情報

《気象庁》

大津波警報

津波警報

津波注意報

避難情報

《美浜町》

避難指示

Jアラートによる津波警報等の発表を、町からの避難指示発令とみなします。

屋外

屋内

携帯電話など

屋外スピーカー

広報車

戸別受信機

ケーブルテレビ（行政チャンネル）

美浜町防災アプリ

緊急速報メール

テレビ・ラジオ

インターネットなど

地域住民の皆様

津波に関する警報・注意報の種類

種類

発表される津波の高さ

想定される被害

取るべき行動

大津波警報

10m超

（10m<予想の高さ）

10m

（5m<予想の高さ≤10m）

5m

（3m<予想の高さ≤5m）

津波警報

3m

（1m<予想の高さ≤3m）

高い

津波注意報

1m

（0.2m≤予想の高さ≤1m）

（表記なし）

木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。

標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。

海の中では人が速い流れに巻き込まれ、また養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。

沿岸部や川沿いにいる人は、直ちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。

津波は繰り返して襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。

「ここなら安心」と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。

海の中には人が速い流れに巻き込まれ、また養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。

津波警報が解除されるまで海に入ったり海岸に近づいたりしないでください。

自ら行動し災害に備えましょう

地域での防災活動に参加しましょう

■自主防災組織について

大規模な災害が発生したときに被害の拡大を防ぐには、国や自治体の支援（公助）だけでは限界があるため、自分の身を守る（自助）と、地域や近隣の人が集まって、互いに協力して防災活動に取り組むこと（共助）が必要です。共助を担う組織の一つとして、町では自主防災組織の設立を呼び掛けています。

■防災訓練に参加しましょう

お住まいの地域に自主防災組織があれば、積極的に活動に参加し、地域の防災訓練にも参加しましょう。

地域で災害に備えましょう

■自主防災組織の設立

地域で災害に備えるため、自主防災組織を設立し、組織で防災対策（危険箇所の確認、防災マップの作成、防災資機材の購入等）を行います。

■避難行動要支援者への支援

災害時には、災害時に支援が必要な方を対象とした「避難行動要支援者名簿」を作成しており、この名簿をもとに避難行動要支援者一人ひとりに合わせた避難支援のための計画「個別避難計画」を作成し、それらの情報を地域の避難支援関係者に提供しています。この名簿や計画を活用し、災害時の避難や安否確認などの支援に地域全体で備えましょう。

■地区集会所等の活用

ハザードマップ等で災害の危険性が低いことが確認できている場合は、地区集会所等を一時避難所として開設し、自主的に避難しやすい環境づくりに協力しましょう。

■地域で共に助け合う

災害時には、被害の把握や安否確認の声掛けなど、地域のために自分のできることを行いましょう。また、お互いに協力して高齢者や避難に時間のかかる方などの手助けをしてください。そのために、日頃からの交流を深め、近所の方と良い関係を築いておきましょう。

ハザードマップに書き込んでみましょう！

①自宅の位置

まずはハザードマップ内のご自宅に●印をつけましょう。

②避難の際の目標地点

津波の危険から身を守るため、避難の際に目標とする地点を決めて★印をつけましょう。

③津波避難場所・指定避難所

津波避難場所・指定避難所の中から避難する場所をあらかじめ確認し●印をつけましょう。

④避難時の危険箇所

地震による家屋・塀の倒壊や津波による浸水など、避難する際に危険で通れないと想定される場所に×印をつけましょう。

⑤高くて頑丈な建物

避難の時間に余裕がないときに逃げ込む高くて頑丈な建物に▲印をつけましょう。

⑥避難経路

①～⑤の印を踏まえ、ご自宅から避難の際の目標地点と、そこから津波避難場所・指定避難所までの避難経路を→で書き込みましょう。

※津波災害警戒区域とは、ハザードマップに着色された浸水のおそれがある区域のこと。